



# 図書館だより



2023年  
9月1日発行

秋草学園高等学校 図書館

2学期が始まって早1週間。なかなか夏休みボケが抜けずに困っている人も規則正しい生活を心がけ、体のリズムを整えていきましょう。2週間後には桔梗祭も控えています。今年は模擬店が復活したり、両日一般公開だったりコロナ禍以前の賑やかな桔梗祭が戻ってきます。その分、みなさんは準備に大忙しとなるかと思いますが、力を合わせて、「笑顔の花」がたくさん咲く桔梗祭にしましょう。図書委員会もおすすめ本紹介POPとおはなし会で参加します。今年もおすすめ本紹介POPには先生方のPOPが登場するかも！？楽しみにしてください。

## 2023年上半期のベストセラー本

### 2023年上半期ベストセラー 単行本フィクション

- 1位『街とその不確かな壁』 村上 春樹 || 著 新潮社
- 2位『汝、星のごとく』 凧良 ゆう || 著 講談社
- 3位『変な絵』 雨穴 || 著 双葉社
- 4位『変な家』 雨穴 || 著 飛鳥新社
- 5位『魔女と過ごした七日間』 東野 圭吾 || 著 KADOKAWA

(日本出版販売株式会社 調べ)

今年の上半期みなさんの記憶に残った本は何だったでしょうか。上記のランキングにあがった本の中には図書館だよりで紹介したものも入っていますが、手にとる機会はあったでしょうか。下半期にはどんな本が話題になるのか楽しみです。

### 913.6-7-3『魔女と過ごした七日間』

東野 圭吾 || 著 角川書店

父の死の真相を追う少年 陸真が出会ったのは不思議な能力を持つ女性 円華。「あたしと一緒にいればわかる」「あたしは魔女だから」そう言って事件現場を探り当てた円華を信じ、陸真は彼女と行動をとる。一方警察もAI、DNA、見当たり捜査官、様々な捜査から犯人に迫っていく。いち早く謎を解くのは誰か。

この作品は「ラプラスの魔女」シリーズの3作目です。円華が初めて登場した作品『ラプラスの魔女』とそのスピンオフ短編集『魔力の胎動』を読んでおくと、より楽しむことができます。円華がなぜ特殊な能力を身に付けることになったのか。その能力と共に円華がどんな人生を歩んできたのかがこの2作から掘めます！



## 文化祭には色々なドラマが起きる

### B913.6-7『赤でもなく青でもなく 夕焼け檸檬の文化祭』 丸井 とまと || 著 マイクロマガジン社

周りに合わせ偽りの自分を演じながら高校生活を送る彩は初めての文化祭でクラスのリーダーを任されてしまう。しかも、副リーダーは苦手意識を持つ石垣くん。不安だらけで始まった文化祭準備だが、クラスメイトと深く関わり、苦楽を共にする中で、自分らしさを取り戻していく。

### B913.6-3『氷菓』

米澤 穂信 || 著 角川書店

「やらなくてもいいことなら、やらない」がモットーの折木奉太郎の高校生活は「わたし、気になります」が口癖の千反田えるとの出会いで激変する。ふたりが所属する古典部の文集『氷菓』に秘められた真実を追い、たどり着いたのは33年前の文化祭。そこで一体何が起きたのか。

## 新着コーナーの気になる本

### 482-1『私の職場はサバンナです！』

太田 ゆか || 著 河出書房新社

サファリガイドとして南アフリカの大自然の中で働く太田ゆかさん。サファリガイドに就くまでの道のりから始まり、サバンナで暮らす動物たちの紹介と彼らを襲う密猟などの問題が挙げられています。人間と動物が共生していく上で守っていくべきことを考えさせられます。

### 913.6-1『カプチーノ・コースト』

片瀬 チヲル || 著 講談社

会社を退職中の早柚は、気づけば日課のようになった海辺のゴミ拾いをしている内に様々な人と出会い、言葉を交わすようになる。それは早柚にとって自分と向き合う時間でもあった。仕事のことを思い出してモヤモヤとしながら今日もゴミを拾う。早柚の心に変化は起こるのだろうか。

## 司書の今月はこの本読みました

この夏、作家 辻村深月さんの講演へ行く機会に恵まれ、本に対する思いや各作品の制作秘話などを聞くことができました。その時に話題にのぼった『この夏の星を見る』辻村 深月 || 著 (913.6-7 角川書店) が気になって読みました。物語の舞台はコロナ禍の2020年。学校生活でも多くが制限されたこの年の中高生が様々な葛藤を抱えながら、失われそうな1年を自分たちの手で守り、今できることを模索していきます。茨城、渋谷、長崎の中高生が夜空の下、リモートで繋がり、忘れられない大切な時間を分かち合う姿に何度も胸が熱くなりました。【今井】